

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田846		
自己評価作成日	令和5年1月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

妙義山の東に位置したこの施設は、四季折々の草花や木々に囲まれ、自然豊かな環境で、入居者や家族の方々に大変喜ばれています。コロナ禍ということもあり、色々なレクリエーションはできなくなっていますが、昔の話などで思い出に浸り語り合うことで、笑顔や楽しさを増やしています。また、レクリエーションができない分、ゆっくりと入浴していただく時間を設け、そこでも昔話や本人の希望などを聞いて、一人ひとりに寄り添った介助ができるよう心がけています。現在は90歳以上の入居者が多いので、昔懐かしいおつきりこみやすいとん、おやきなどを提供したり、地域の方々からいただいた取れたての野菜をふんだんに使用した料理を三食手作りしたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

妙義山の麓の自然に囲まれた立地にあり、四季の風景が観られ季節の移ろいを感じることができる。事業所の畑では野菜が作られ、地域の方や退居された利用者の家族からの差し入れもあり、採れたての野菜が日々調理されている。健康管理においては、近隣の病院やクリニックと、訪問看護・事業所の看護師が医師と連携して、健康状態を定期的に確認している。看取り経験もあり、重度化した場合に施設でできることを明確にして家族と書類を交わし、医師や訪問看護師・事業所の看護師や介護士が連携して、最期まで家族とともに時間が過ごせるような環境を整えている。災害対策では、現在コロナ禍のため事業所内で年に2回避難訓練を行っているが、地域との連携を築き、災害時の地域連絡網が作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝の申し送りの時に再確認し、利用者様と職員が共に笑顔で落ち着きのある生活が送れるように努めている。また、ホール内にも掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。	職員の意見で作りあげた理念を、朝の申し送り時に唱和している。利用者と職員と一緒に歌を歌ったり、利用者同士が会話する様子を職員が見守ったりなど、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域の人達にチラシや文章で知らせ、催し物(歌や踊り等の慰問、施設のお祭り)の参加を呼びかけていたが、コロナ禍の為、できていない。	事業所前の道を通る人と手を振りあったり、庭や畑での日向ぼっこの際には挨拶や会話をしたりする機会がある。地域の方や退居した利用者家族から採れたての野菜の差し入れがある。令和5年度からは、利用者と家族の集いを再開する予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や電話相談等の際に認知症について心配なことがある時は、「気兼ねなく相談してください」と呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を前もって文章で連絡し、年間の行事や施設内の報告をし、各委員会の意見や希望を伺い、日常的な支援に繋げている。また、家族には利用者のホームでの生活状況を報告して、家族の意見や希望を聞き、それを状況に応じて反映できるようにしている。	以前は市の職員、区長、班長、民生委員、家族代表、職員で会議を行っていたが、コロナ禍のため家族の同意を得て中止している。現在は家族の来所時や電話連絡で実績報告をして、諸々の意見を取り入れている。令和5年度から会議再開を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の窓口に出向く時に、事業所の空き情報や職員体制の現状などを伝え、相談している。その際、意見や希望を述べ、助言や指導を仰いでいる。書類や介護保険更新書類を持参し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の窓口には、活動報告や手続き時に出向いている。職員体制や空き情報、入居希望者の状況を相談し、助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを宣言し、玄関にその内容を掲示している。朝夕の申し送り時を利用して、職員全体が身体拘束の意義を理解した上で拘束しないケアを実践するよう、日頃から話し合い、その方法を模索している。	身体拘束をしないケアの宣言を、玄関に掲示している。申し送り時に身体拘束の具体例をあげて管理者が指導し、職員間で話し合っている。一時的に拘束の必要がある時は、家族の同意のもと使用することもある。	拘束の経緯や使用した時間が記録に残るよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学び、職員全体が言葉遣いにも配慮し、行動言動を含めた虐待を起こさない施設になるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが学ぶ機会を持って関係者と話し合い、必要な人が制度を活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時文章を渡し、それに沿って高等でも十分説明を行い、本人及び家族に理解していただき、納得の上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いやオムツやパット等を持ってきていただく際に利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞いている。不満や苦情、デリケートな話がある場合には、落ち着いた環境で丁寧に詳しく話を聞き、管理者と職員が話し合い今後の運営に反映させている。	コロナ禍のため面会制限があるが、来所時や電話連絡時を、意見や要望を聞く機会としている。利用者から買い物に行きたいとの希望があり店に行き、買いたいものが分からず帰って来ることもあるなど、まずは希望を形にすることを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時を利用して、職員から意見や要望を出してもらい、話し合いをし解決している。また、申し送りノートを活用して、職員全体が共有できるようにしている。	機材の破損や物品の不足は、随時管理者と職員が話し合って準備している。機材の取り扱い等は、申し送りノートを活用している。勤続10年以上の職員が8名おり、意見や要望は直接管理者に伝えられ、連携を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段からつぶさに職員とコミュニケーションをとり、希望や考え方を聞くようにしている。向上心を持って働けるような環境や条件を整えられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議ではテーマを基に勉強会を行うようにしている。外部研修を受ける機会を確保するように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会に参加して、情報交換等を通じてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は、新しい環境に不安や心細さを感じている。親身になって接することにより、その不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、いつでも快く対応できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が一番必要としている支援を見極め、様々な角度からのサービス利用も紹介し、ご自身に決断していただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の楽しみや趣味、思い出など、日々の生活を通して喜怒哀楽を共に共有できるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の生活の様子や健康状態、心配事などを細かく報告し、協力し合い、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会が制限されている為、電話や手紙、窓越しの面会など、その関係性が希薄にならないように支援している。	コロナ禍のため面会制限があるが、窓越し面会や電話を取り次いで会話をしている。また、友人や親戚への手紙や逢いたいという希望には、家族と相談して関わりが継続できるようにしている。以前は、利用者の住んでいた地域の店に出かけた事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や工作、体操やボール遊びなど、一人ひとりの身体状況に合わせて行うことで、利用者同士が関わり合い楽しめるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があれば、いつでも声をかけていただくように伝え、退所後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、利用者本人や家族から、これまでの生活や暮らし方、こだわりなどを詳しく聞き、できるだけ環境を変えないようなサービス利用につながるよう心がけている。	入居時には、詳しく暮らし方やこだわりを利用者や家族に聞き、職員間で情報共有を図っている。また、日々の会話や、表情、動作から意向を汲み取っている。その他、必要時声掛けをして、意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、利用者本人や家族から、これまでの生活や暮らし方、こだわりなどを詳しく聞き、できるだけ環境を変えないようなサービス利用につながるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の心身状況や身体状況など、細かく観察記録し、現状の把握に努めている。利用者本人の有する力も見落とさないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、利用者本人がより良く生活していくための課題とケアのあり方について、利用者本人、家族、職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に合わせた介護計画を作成している。	ケアプランを作成し、モニタリングは、利用者・家族・職員の意見、記録からケアマネジャーがまとめ、次回のプランに反映している。ケアプランは一定期間事務所にあり、職員がいつでも閲覧できるようしている。日々の記録には、状況が詳しく記載されている。	介護計画と日々の記録が連携することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気づきや工夫を細かく記録し、常に職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の状況、その時々要望に応じて、職員間で話し合い、ケアの方向性を検討し、支援していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社協、包括等の行政や、ボランティア、警察、消防等と必要とされる情報を共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の心身状態を把握し、かかりつけ医と連携をとり、異常の早期発見、治療がでるよう支援している。	かかりつけの医師が定期的に訪問診療して、健康状態を把握している。随時事業所の看護師や訪問看護師がかかりつけ医に相談し、専門医の受診につなげている。薬の管理は、事業所の看護師が行い、申し送りノートを活用して職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気づいたことや利用者様の状態を看護職員やかかりつけ医に伝え、相談している。職員間の申し送りや話し合いを重視し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病状、既往歴、内服薬等の情報を関係医療機関へ伝える。又、退院される際は、情報共有を受け、適切な看護、介護ができるよう連携していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や何らかの原因で食事摂取等ができなくなった段階を利用者や家族と早期の時点で話し合い、当施設でできることを伝え、希望により、看取りに向けた支援を行う。	入居時に、事業所の指針と看取り支援の説明を行っている。身体状況の悪化時に見取り期を医師が判断し、家族、事業所で話し合い、方向性を決めている。昨年コロナ禍でも家族との面会方法を工夫して、家族に見守られるなか看取りを実施した実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応をマニュアル化し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、年1回は地域の消防団も訓練に参加し、火災訓練・通報訓練、避難訓練を行うこととなっているが、コロナ禍ということもあり、施設内で全職員が適切な動きができるよう訓練している。	コロナ禍であるため、事業所内で避難訓練を年に2回以上実施している。当日設定で開始するなど、訓練内容が意識できるようしている。管理者が地域に働きかけ、9名の方の同意をもらい災害時の連絡網が作成されている。地域の消防団の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って対抗している。トイレ誘導の際や失敗した時は、言葉遣いに気をつけ接している。	守秘義務について張り紙をして、注意喚起を図っている。また、管理者は申し送り時や随時、職員に伝えている。職員間で注意しあったり話し合ったりする機会を持ち、特に入浴や排泄介助の声掛けや誘導方法に配慮して関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を利用者様の立場に立って、気持ちに共感しながら「傾聴」を心がける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍であるので、外出が難しく、静かにホームの中で過ごすことが多くなった。利用者様も90歳以上が多くなり、一番の楽しみは入浴と食事なので、その2つを大切に、時間をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の多い施設なので、髪の毛のセット、散髪、爪のお手入れは大切な時間とし、話をしながら、心地よく過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の農家の方からいただく季節の野菜を使い、三食手作りで提供している。	野菜は近所の方や退居した利用者家族からの頂きもの、事業所の畑から採れたものを使用し、3食手作りにしている。季節の献立や、利用者からの希望のメニューに応じている。おやつは、おやき・おはぎなど手作りされたものが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事摂取量をそれぞれチェック表にして支援に当たっている。不足の時は、その都度、補う工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者本人ができる方は自力で行ってもらい、できない方や場合には職員がサポートし仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムを把握し、トイレ誘導を行っている。テレビ体操や手・足・首の運動を無理のない範囲で行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。体重が多く立位困難な方には、二人体制で介助に当たり、トイレで気持ちよく排泄してもらえるように支援している。現在オムツ使用の方が1名いるが、時間ごとに陰部洗浄を行い清潔保持を配慮している。	立位困難な利用者には、職員が2名で関わるなどして出来る限りトイレでの排泄が出来るようにしている。職員間で話し合い布パンツでいられるように排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のサイクルを知り、便秘の予防には水分摂取を心がけ、ヨーグルト、バナナや牛乳等を食事やおやつ時に摂る工夫をしている。排泄状況に応じた下剤の調整、食前体操も併せて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定し、支援している。毎朝バイタル測定を行い、顔色や体調を観察して支援している。スタッフと昔話をしたり、入浴剤、季節に応じたゆず湯や菖蒲湯などで、心地よさや楽しみを味わえたりできるよう工夫している。	月曜日と木曜日が入浴日になっているが、体調や気候にあわせて柔軟に対応している。対応職員を変えて声掛けをしたり、季節によってゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだりして、ゆっくり職員と会話する機会としている。終末期の利用者には、毎日清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調などを考慮し、休息してもらっている。声かけにて室内の温度をエアコンや換気で調節し、天気の良い日には布団を干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を表にまとめ、職員が分かりやすい場所に貼って確認している。利用者様の個人ファイルに薬局が発行した薬の説明書を綴じ、職員全員がいつでもチェックし確認ができるようにしている。症状に変化がある時は、看護師やかかりつけ医に相談し検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、新聞折り、テーブル拭き、花の水やりなど行っている。歌を歌ったり、コマ回し、紙のお花作りをしながら、昔の話に花を咲かせ、笑ったり和んだりしながら気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、ほとんど外出支援はできていない。	コロナ禍でドライブや散歩が出来ていないが、花を見ながら庭でお茶を飲む機会を設けている。夏の日差しを避けるためゴーヤや朝顔のカーテンを作り、花や実を楽しむ機会にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の紛失で、不安やトラブルが発生しないように所持していない。ドライブでコンビニや道の駅に立ち寄った際には、希望に添って利用者に少額の金額を渡してスタッフが寄り添いながら買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、日常の生活を撮影した写真をはがきに印刷し、文字を書くことができる利用者には書いていただき、難しい方は代筆し送付したりして利用者の気持ちにより添えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の当たる玄関にはソファが置かれ、童謡や懐メロが流れ、窓の外には四季折々の草花が眺められる。食事後は利用者様の集いの場となっており、昔話や歌を歌い過ごしている。トイレは汚れた際にはその都度清掃を行い、昼夜1回ずつ全体的に掃除をし、臭いがなく清潔であるよう心がけている。ホールには、行事の写真を飾ったり季節感のある飾りを貼ったりしており、天井は吹き抜け天窓で明るく心地よい場になっている。	天井が吹き抜けで高く、天窓から明かりが入っている。梁がみえ広々としたホールの窓からは、季節の風景が眺められる。また、利用者と職員の手作りの季節の作品が飾られている。1日に2回掃除が行われ、清潔な空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りを好む人や気のあった利用者同士が会話やレクリエーションを楽しめるようにテーブル席の配置を工夫している。動線の確保をしっかりと行い、ホール、玄関ソファ、居室を好きな時に好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、利用者本人が愛用されていた家具、小物、好みの衣類、写真を居室に備え付けたり、使い慣れた寝具を持ち込んだりして居心地よく過ごせるよう工夫している。日差しが強い季節になると、居室の窓の外に日よけとしてよしずを立てかけ、心地よく過ごせるように工夫している。	事業所の備品はベッドがある。家具や寝具は入居時に家族と話し合って使っていたものを中心に、居室作りが行われている。夏は日よけによしずやグリーンカーテンが設置され環境調整が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、手すりが取り付けられている。ホールに設置している家具は角が丸い物を選び設置している。居室の出入り口には動物や乗り物のネームプレート、大きな文字のトイレ案内等、分かりやすい工夫をしている。歩行や移動が安全にできるように、空間を広くとる配慮をしている。		